

東京海洋大学，38社の物流IT関連企業を集め「合同企業説明会」を開催

東京海洋大学は1月17日、東京都江東区の越中島キャンパスで第4回「ロジスティクス・IT関連企業合同説明会」を開催した。

これは学内で企業が個別就職説明会をするより多数企業に呼びかけを行うほうが効率的という趣旨の下に、同大学海洋工学部・流通情報工学科が中心となって実施しているもので、4年目を迎えた今年は38社の物流・IT関連企業が集結した。

対象は流通情報工学科の学生が中心だが、毎年、多学科の学生や大学院生も積極的に訪れるなどの賑わいを見せており、今回は約100名の学生が参加した。

*

流通情報工学科は、国内では数少ないロジスティクスの一元的教育を行っていることでも知られ、ロジスティクスのスペシャリストを育成するカリキュラムを持つ。苦瀬博仁教授（流通情報工学科・学科長）は「うちのんびりした学生が多い。ハッパをかけてほしい」と話すが、同学科では毎年50名弱の学生が卒業する中、就職率100%を誇り、大学院への進学者も10名～15名あるという。

苦瀬教授は「工学系の大学院への進学率は年々高くなっている一方

で、企業側からは『物流業務には大学院卒業者はいらない』という声もある。同時に売り手市場で就職率が高いため、大学院進学を考えていた学生が社会勉強のためにと企業周りをしたところ、あっけなく内定が決まり、そのまま親に説得され就職してしまうケースもあった」（同）という。

同学科の就職先は運輸・倉庫、情報通信、メーカー系（物流子会社含む）がほぼ1/3ずつの割合で、メーカー系への割合が年々高まる傾向がある。これに対し苦瀬教授は「ロジスティクスを推進するには物流だけではなく、生産から販売までのサプライチェーンで仕事をしたいというニーズがあるのではないか。今後もメーカー系の比率は拡大していこう」と分析する。

現在は学生の売り手市場ということもあり、全体の傾向として就職率は高く、「時折、大学院生にはびっくりするような一本釣りのオファーが来る」と苦瀬教授。「大学院でこ



▲苦瀬博仁教授



◀第4回 ロジスティクス・IT関連企業合同説明会の模様

うした研究をしている学生を——というニーズも高く、大学側としては大変にうれしい傾向だ」（同）と話していた。

*

説明会の会場では1時から5時半までの間、学生たちがそれぞれお目当ての企業ブースを訪ね歩き、熱心な学生は企業側と40分間もかけていろいろな話を聞いたという。

今回の参加企業は、アイ・ロジスティクス(株)、アサガミ(株)、味の素物流(株)、伊藤ハム(株)、(株)内田洋行、(株)岡村製作所、カンダコーポレーション(株)、(株)キューソー流通システム、(株)近鉄エクスプレス、鴻池運輸(株)、山九(株)、(株)シーエーシー、(株)シーネット、新開(株)、鈴与(株)、住友金属物流(株)、センコー(株)、ソニーサプライチェーンソリューション(株)、(株)ダイフク、鉄道情報システム(株)、寺田倉庫(株)、東芝物流(株)、ニチレイロジグループ本社、(株)日新、日水物流(株)、(株)日本アクセス、日本通運(株)、日本ユニシス(株)、(株)日立物流、富士物流(株)、三井倉庫(株)、三菱化学物流(株)、(株)ヤマタネ、優先情報開発(株)、(株)ユニエックス、(株)ライフサポート・エガワ、ラックホールディングス(株)、リコーロジスティクス(株) (50音順)。

*

なお同日、海洋大学では流通情報工学科の次期学科長を決定し、懇話会の際に発表された。次期学科長の木宮直仁教授は、1972年に東京外国語大学外国語学部英米語学科卒、1974年に東京外国語大学大学院ゲルマン系言語（英語）修了。専門分野は英文学と海洋文学。研究テーマとしては英国の海洋作家（特にジョウゼフ・コンラッドの作品研究）、現在では英国帆船における階級社会ほか。

なお苦瀬教授は今後も大学就職担当責任者を続け、業界全体の“学”の牽引役として注力していくとしている。

MEI